世界史上、古代文明化社会の種類と現代の主要文明
-日本の古代文明、古代文明の 10 選と 4 大文明-

北村英子・近江巳記夫・小山　博・沢　勲
（洞窟環境 NET 学会）

Types of Ancient Civilized Oociety and its Major Civilizations of Today
Ancient Civilization of Japan、In World History
-10 Selections of Ancient Civilizations and 4 Major Civilizations -

Hideko KITAMURA・Mikio OUMI・Hiroshi KOYAMA・Isao SAWA

ABSTRACT

This study is a part of the integrated academic research which aims to clarify the civilization of the area and to make the material of cultural heritage study. The subjects are the types of ancient civilizations of the world, the major civilizations of today, the 10 selections of ancient civilizations and the four major civilizations of ancient civilizations and ancient civilizations that also existed in Japan. The kind of ancient civilization of the world is mainly the following civilization. 1.Aztec civilization is an Aztec kingdom that flourishes in Mexico and is a road network with advanced astronomy and excellent civil engineering power. They performed personal sacrifices for the sun and rituals of the rain. 2.The Inca civilization developed until it was destroyed by the Spanish. 3.The ancient Persian civilization is located in the area where Iran and Afghanistan are. Human civilization existed in 1200 BC. The dynasty extended to Greece, the Arabs, Turkey and even Mongolia, and through military conquest. Persian and Persian letters, famous for the Persian calendar.

4.Roman civilization consists of many tribes, is a city state, and controls the entire Mediterranean world. The official national numbers are the Senate and the Romans. The city of Rome has remained as a city after the fall of the empire. 5.The Mayan civilization has developed astronomy and mathematics through excellent astronomical observation, and has used tens of thousands of hieroglyphics with a very elaborate calendar and tens of thousands of characters. On the other hand, the ceremonial ceremonies were also popular.

This paper is a report of empirical research that captures the civilization as a stage that determined the fate of the ancient nation in various ways. In relation to the resident development history and environmental change history of the civilized area, we examined what kind of positioning and problems the civilization had. As a future research subject, We would like to arrange findings on the preservation of civilization and environmental problems. We plan to continue the survey in the future, but for the time being we have organized the findings of our past achievements.

キーワード：超古代文明、古代文明、現代文明、日本の文明.
Keywords：Super Ancient Civilization, Ancient Civilization, Modern Civilization, Japanese Civilization.
[洞窟環境 NET 学会　紀要 11 号][Cave Environmental NET Society(CENS), Vol.11(2020)　-　pp]

目次: 1.はじめに、2.超古代文明と古代文明、3.世界の古代文明の種類、4.現代の主要文明、5.古代文明の 10 選と古代4大文明、6.日本にも存在した古代文明、7.おわりに。謝辞、参考文献。

1.はじめに

本研究は、地域の文明を明らかにして、文化遺産学の資料を作成することを目的としている総合学術調査の一部である。対象は、世界の古代文明の種類、現代の主要文明、古代文明の 10 選と古代4大文明および日本にも存在した古代文明である。

世界の古代文明の種類は、主に次の文明である。①アステカ文明は、メキシコに栄えたアステカ王国で、高度な天文学や、優れた土木力をもつ道路網があって、太陽への生贄や雨乞いの儀式などで人身御供を行っていた。②インカ文明は、スペイン人に滅ぼされるまで発展した。③古代ペルシア文明は、イランやアフガニスタンがある地域に位置し、人類の文明は、紀元前 1200 年には存在していた。王朝は、ギリシア、アラブ、トルコ そして、かのモンゴルにまでし、軍事的征服を通じて拡大。ペルシア語とペルシア文字、ペルシア暦で有名である。④ローマ文明は、多部族からなり、都市国家で、地中海世界の全域を支配していた。正式な国号は、共和政ローマで、元老院ならびにローマ市民で構成される民会である。ローマ市は、帝国の滅亡後も、一都市として存続している。⑤マヤ文明は、肉眼による優れた天体観測により天文学や数学が発展し、非常に精巧な暦を持ち、文字も数万種ある象形文字のマヤ文字を使用した。一方で、生贄の儀式も盛んに行われていた。
⑥インダス文明は、インドとパキスタンを流れるインダス川とそ、その周辺で栄えた。青銅器が使用され、建物はレンガである。⑦古代ギリシア文明は、暗黒時代、幾何学文様期、アルカイック期、古典期、ヘレニズム、ローマ帝国支配下のギリシャ、ビザンツ帝国支配下のギリシャとビザンツ帝国があり、洞窟生活が想像できる。⑧エジプト文明は、世界四大文明のひとつであり、暦として太陽暦が、文字としてヒエログリフが使用。天文観測、測量、幾何学などが発展した。さらに、ピラミッド、ギザの大スフィンクス、砂岩の崖に彫られた4体の巨像が残るアブシンベル大神殿等がある。⑨メソポタミヤ文明は、世界四大文明のひとつで、楔形文字を使用し粘土板に刻んで記録、暦として太陰太陽暦を用いた。さらに、60 進数も使用した。⑩シュメール文明は、現在のイラクやクウェートにて発展した都市文明であり、紀元前 3500 年頃。初期メソポタミア文明に含まれ、メソポタミア文明の起源とも言われる。日本列島の文化や文明を表すのに用いられている言葉である。

◎アンデス文明は、文字を持たず、縄の結び目を利用し、数字や情報を表す。
◎エーゲ文明は、古代ギリシアの文明で栄えた。
◎キクラデス文明は、石で作られた女性の像が多く発掘。
◎黄河文明は、世界 4 大文明で、二里頭文化などが発展。
◎中華文明は、中国文明、中華文化、華夏文明、儒教文明とも呼ばれる。
◎遼河文明は、北方草原文明 中国の東北部の満州地域を流れていた遼河流域で発展した。

本稿は、古代国家の命運を決定づけた舞台としての文明地を、多角的にとらえた実証研究の報告である。文明地の住民発達史や環境変遷史との関わりで、文明がどのような位置づけや問題点を有しているかという検討をした。今後の研究課題として、文明の保全と環境問題などについて所見を整理し、今後も、調査を継続する予定であるが、とりあえずこれまでの成果の所見を整理した。

2.超古代文明と古代文明

2-1.超古代文明

「超古代文明」は、文字による記録が残されている有史以来の文明（四大文明など）が成立したとされる紀元前4000 年頃よりも前（先史時代）に存在したとされる、現代文明よりも高度な文明や、不明な点が多い文明を指す呼称である。ムーやアトランティスなどの伝承や創作文学などを発端とするものが多く、これらの文明には、現代文明をしのぐ卓越した技術によって繁栄したが、自らの超技術に溺れて自滅したり、驚異的な天変地異によって消滅したという伝説が付随し、様々な都市伝説や噂が広がり、考古学でも議論が続くテーマでもある。これらは、しばしばファンタジーや創作の世界におけるテーマとされ、さらには、その根源を現代の人智を超越する心霊や宇宙人に基づく神秘主義に求めることもあり、主な超古代文明には、アトランティス、ムー大陸とレムリアである。
関連項目：Wikimonnaie.png、ポータル スピリチュアリティ 、オーパーツ、オリハルコン、ヴィマナ、古史古伝、竹内文書、古代宇宙飛行士説、古代核戦争説、ペトログリフ、マハーバーラタ、ラーマーヤナ、二十世紀の神話、超常現象、伝説上の大陸、偽史、疑似科学、考古学、トンデモ本#疑似科学批判につい る。

2-2.古代文明

古代文明とは古代に存在した文明であり、教科書にある四大文明とは、エジプト文明とメソポタミア文明と黄河文明とインダス文明が代表的な例である。「文明」と呼ぶほどの段階でなかったものについては、文化という表記がなされることもある。何を持って文明と呼ぶのかとか、どの年代まで古代文明なのかとか、割と曖昧な表現で、その他、いわゆる「超古代文明」のことをそう呼んでいる人もいる。

新大陸の文明は，旧大陸の文明とは独立に誕生していることも明らかである。古代文明が生まれたこれらの地域を通じて，農耕の発展にともなう人口増加，富の蓄積，職業分化，都市の形成，水力統制，土器・織物の製作などがみられ、文明と都市は、文明の発展に対して都市の果たした役割は大きい。

3.世界の古代文明の種類

3-1.アフリカ文明

期間：紀元前６世紀～紀元後４世紀に、ナイル川上流域で栄えた古代クシュ王国が４世紀に入りエチオピアのアクスム王国のエザナエに滅ぼされるまで繁栄したアフリカ地域の文化や文明である。アフリカの北部はイスラム文明に属し、かつてアフリカ大陸の四分の一にも及ぶ強大な王国を築いた古代クシュ王国が存在していた。その繁栄のあとは、現在のスーダン北部に多く残されています。メロウェを中心に、現在のスーダンの首都・ハルツームの北東に繁栄した都市で、鉄鉱石や樹木が豊富で、アフリカ黒人の歴史上、最初の鉄器文明を有した。鉄器製造の中心地で、。今に残るその遺跡群に、当時の繁栄の面影を見られる(**写真 3-1**)。

写真 3-1.アフリカ文明

ヨーロッパの帝国主義はサハラ以南の地域にキリスト教をもたらしたが、まだ部族ごとのアイデンティティが強く、明確なアフリカ文明の存在を認めていない学者が多い状況である。https://ja.wikipedia.org/wiki/アフリカ

3-2.イスラ-ム文明

写真 3-2.イスラ-ム文明

期間:900～1200 年は、イスラム教は、アラビア半島で生まれ、急速に北アフリカ、イベリア半島、中央アジア、インド亜大陸、東南アジアに広がったイスラ-ム文明の黄金期である。イスラム教徒の間で学問が広まり、イスラム教徒はこの間、医学、植物学、数学、化学、物理といった分野で目覚ましい発展を遂げました。この時期、イスラム教徒と中国人が、学問を巡って競い合って、キリスト教徒のヨーロッパ人は、大きく遅れを取るが、その後、イスラム文明は衰退に向かった。アフリカの北部はイスラム文明に属する(**写真 3-2**)。https://www.y-history.net/appendix/wh0504-000.html

3-3.インド文明

写真 3-3.インド文明

期間:紀元前 2300 年～紀元前 1700 年頃、インダス文明(**インドの古代文明**)インダス川流域を中心とする広大な地域に青銅器時代に栄えた都市文明。この文明の圏内には大小の都市遺跡が存在し、インドで発生した仏教とヒンドゥー教の影響下の地域の文化や文明である。文明学者の伊東俊太郎が定義し、ヒンドゥー教の影響下のインド・ネパール、仏教影響下のタイ・ミャンマー・カンボジア・チベット・スリランカ・ジャワの範囲がインド文明とされている(**写真 3-3**)。インダス文明 (インド・パキスタン文明)。https://www.sekainorekisi.com/9-インドの古典文明

3-4.オルメカ文明

写真 3-4.オルメカ文明

期間:紀元前 1200 年頃～紀元前後、メソアメリカ文明の元となった文明である。石や宝石などを加工する技術に優れ、巨石などを加工し、巨石人頭像などが作られた。ジャガーを信仰し、神に人間を生贄をささげたり、祭事には儀式として球技なども行われた(**写真 3-4**)。

3-5.キクラデス文明

写真 3-5.キクラデス文明

期間 : 紀元前 3000 年～紀元前 2000 年頃、エーゲ文明のひとつで、エーゲ海のキクラデス諸島で栄えた。キクラデス文明では大理石で作られた女性の像が多く発掘されたのが特徴で、約 1400 体知られているが、20 世紀初頭に盗掘され、出土地がわかっているのは、その 40%にすぎない。エーゲ海西部ではすでに紀元前 4000 年より前に、アナトリアとギリシア本土の影響が混合した独特の新石器文化が栄えた(**写真 3-5**)。これはエンマ小麦、野生種の大麦、羊、山羊、海で捕れるマグロに依存していた。https://ja.wikipedia.org/wiki/**キクラデス文明**

3-６.サポテカ文明

期間:7世紀～12 世紀、サポテカ(またはサポテック、サポテカ文化、サポテカ文明)は、メキシコ南部、オアハカ州のモンテ・アルバンを中心として栄えていたとされる文明。メソアメリカ文明のひとつに数えられる。前 500 年頃、建設されたとされるモンテ＝アルバンなどの遺跡が残されている。現在のメキシコのオアハカ州に存在した(**写真 3-6**)。https://ja.wikipedia.org/wiki/**サポテカ文明**

写真 3-6.サポテカ文明

3-7.アンデス文明

期間:紀元前 5000 年～1532 年。メソアメリカ文明のひとつで、南米のペルーを中心としたアンデス中央高地に存在した(**写真 3-7**)。アンデス文明の特徴としは、文字を持たず、縄の結び目を利用し数字や情報を表す、金や銀の鋳造が盛ん、リャマやアルカパの飼育などがある。アンデス文明の遺跡には、マチュ・ピチュ遺跡、ナスカの地上絵などが存在。スペインによるインカ帝国征服により終焉を迎えた。https://natgeo.nikkeibp.co.jp/nng/news/genre_culture...**アンデス文明**

写真 3-7.アンデス文明

3-8.ティオティワカン文明

期間:紀元前2世紀～6世紀。現在のメキシコシティから約 50km 北東にいった場所に栄えた文明であり、メソアメリカ文明のひとつである。巨大な宗教都市とされ、月のピラミッド、太陽のピラミッド、そして、南北約 5km に渡る死者の大通りなどの遺跡がある(**写真 3-8**)。

https://www.y-history.net/appendix/wh0204-006.html

写真 3-8.ティオティワカン文明

3-9.ルテカ文明

期間:7 世紀～12 世紀、ティオティワカン後、メキシコ中央高原で盛えたトルテカ帝国を中心とした文明であり、メソアメリカ文明のひとつに数えられる。しかし、トルテカ帝国の存在ははっきりしておらず、トルテカ文明自体も詳しくは解明されていない(**写真 3-9**)。

https://ja.wikipedia.org/wiki/**トルテカ文明**

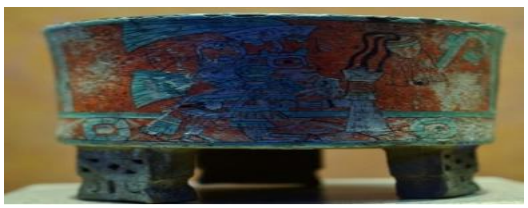


写真 3-9.ルテカ文明

3-10.トロイア文明

期間：紀元前 2600 年～紀元前 1200 年頃。エーゲ文明のひとつの文明で、アナトリア半島（小アジア半島）である。トロイア文明は「イリオス」を参照。政治：強大な王権による東方的専制政治発見者は、1871 年、シュリーマン。民族：不明。中心地は小アジア半島西部トロイアである（**写真 3-10**)。https://ja.wikipedia.org/wiki/トロイア文明

写真 3-10.トロイア文明

3-11.ミシシッピ文明

写真 3-11.ミシシッピ文明

期間：800 年～1500 年。現在のアメリカ中西部などのミシシッピ川周辺にかけて発展した文明である。ミシシッピ文明の特徴は、頂点のない台形のマウンドの構築。トウモロコシを基本とした農業。土器の混和材として川の貝を用いた。西はロッキー山脈、北は五大湖、南はメキシコ湾、東は大西洋まで交易の範囲が拡がっていること。社会構造における首長制国家たる形態の発展。点社会構造。社会的不平等の発展。居住地域の階層化の開始。大規模なマウンド群をもつような祭祀センター（**写真 3-11**）。science-2ch.net/t/ミシシッピ文明

3-12.ミノア文明

写真 3-12.ミノア文明のクノッソス宮殿

期間：紀元前 3600 年～紀元前 1100 年頃。エーゲ文明のひとつで、エーゲ海のクレタ島で栄えた青銅器文明のことである。ミノア文明は大きく、前宮殿時代、古宮殿第 1 時代宮殿、新宮殿第 2 時代時代、最終宮殿時代の 4 つの時代に分けられる。ミケーネ文明、エーゲ文明のひとつで、ペロポネソス半島のミケーネで栄えた。巨石を使用した建造物などが遺跡として残っている。伝説上のミノス王にちなみ、ミノス文明は、クレタ文明とも呼ぶ。**写真 3-12** はミノア文明のクノッソス宮殿である。

3-13.ラテンアメリカ文明

写真 3-13.ラテンアメリカ文明

期間：マヤ（2 世紀～12 世紀）・アステカ（14 世紀～16 世紀）、インカ（13 世紀～16 世紀）と始原期は、紀元前 2 万年～紀元前 1 万年である。ラテンアメリカ地域における文明で先住民の文化と、ヨーロッパからもたらされたキリスト教（カトリック）の影響が混ざった文化や文明を表します。世界四大文明があり、メソポタミア文明・エジプト文明・インダス文明・中国（黄河文明）をいう。ラテンアメリカにメソアメリカ文明、アンデス文明があり、これらを含めて六大文明という。メソアメリカ文明「中米」とアンデス文明「南米」である（**写真 3-13**）。主要文明は、マヤ・アステカとインカである。中心地域は、マヤ（グァテマラ・ベリーズ・ホンジュラス）・アステカ(メキシコ)、インカ（ペルー、チリ、ボリビア）。言語は、マヤ（マヤ語）・アステカ(ナワトル語)とインカ（ケチュア語）。主食は、マヤ・アステカ（トウモロコシ）とインカ（マメ、カボチャ、高地はイモ）である。https://ja.wikipedia.org/wiki/ラテンアメリカ

3-14.四川文明

写真 3-14.四川文明

期間：紀元前 2000 年～紀元前 600 年。長江文明のひとつに数えられ、現在の中国四川省で栄えました。四川文明には宝墩(ﾎｳﾄﾝ)と三星堆文化となどが栄えた。2004 年現在、長江文明・四川文明など体系化された文字は見つかっていない。ただし、文字様の記号は見つかっており、現在出土している最古の 甲骨文字は紀元前 1300 年位であるとされている(**写真 3-14.**)。

https://ja.wikipedia.org/wiki/四川文明

3-15.西欧文明

写真 3-15.西欧文明

期間：700 年～800 年に生まれ、現在はヨーロッパ、北アメリカ、オセアニアが含まれると考えられている。ヨーロッパにおける文明で主にキリスト教の影響下にある文化や文明である。[西欧文明とイスラム文明]・ギリシアやローマは西欧でなく，地中海域先進文明圏に属する。西欧というのは，本来はアルプス山脈とピレネー山脈以北の地域である。 西欧というのはヨーロッパの西部一帯に位置する国々のことで、西ヨーロッパという。国際連合の分類では西欧の国々は、オーストリア・オランダ・スイス・ドイツ・フランス・ベルギー・モナコ・リヒテンシュタイン・ルクセンブルク等の国々になる。ヨーロッパ文明（西欧文明・**写真 3-15**)。500 年前には、文明地域はユーラシア大陸の主要部であるインドやシナ、イスラム地域である。ローマ帝国は 395 年に、西ローマ帝国と東ローマ帝国に分裂した。西ローマ帝国は、476 年に滅亡し、ギリシャ＝ローマ文明は滅んだ。西欧文明はヨーロッパの内陸部に発生し、南部または地中海地域だけでなく、むしろ、北西部や大西洋地域で、独自の発達をした。西欧文明の主たる担い手は、ゲルマン民族である。ゲルマン民族は、ローマ帝国の衰退期に、帝国各地に流入し、496 年には、自らトリックに改宗した。王が改宗した事によって、ゲルマン民族は、徐々にキリスト教化していった。8世紀前半になると、キリスト教は、ゲルマン民族の固有の信仰を否定した。ギリシャ＝ローマ文明とユダヤ＝キリスト教とゲルマン民族の文化という三つの要素が融合し、西欧文明の骨格が形成した。

https://ja.wikipedia.org/wiki/西欧文明

3-16.長江文明

写真 3-16.長江文明

期間:紀元前 14000 年～紀元前 1000 年頃。畑作中心の黄河文明との違いからどちらの農耕も独自の経緯で発展した。長江文明の発見から稲(ジャポニカ米)の原産が長江中流域とほぼ確定され、稲作の発祥も見られる。日本の稲作もここが源流と見られる。中流域の屈家嶺文化:紀元前 3000 年? -紀元前 2500 年?)・下流域の良渚文化:紀元前 3300 年? - 紀元前 2200 年?)の時代を最盛期として、後は衰退し、中流域では黄河流域の二里頭文化が移植されている。黄河流域の人々により征服された結果と考えられ、黄帝と神農や蚩尤の対立などの伝説は、

黄河文明と長江文明の勢力争いに元があると考えられる。河姆渡遺跡からは、玉で作られた玉器や漆器などが発見、呉城文化（紀元前 1400 年? –紀元前 1000 年?)からは、磁器が発見された（**写真 3-16**）。中国文明（黄河文明、長江文明、遼河文明）https://ja.wikipedia.org/wiki/長江文明

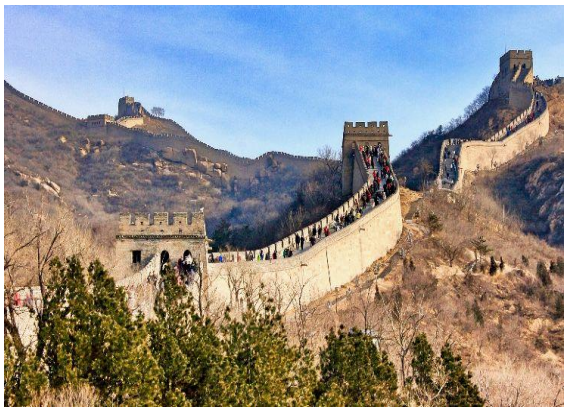


写真 3-17.中華文明

3-17.中華文明

期間：1500 年、中国で成立した文明で、中国文明、中華文化、華夏文明、儒教文明とも呼ばれる。中国の黄河文明、長江文明、遼河文明の3つの文明を起源とした文明で、主に儒教の影響下における文化や文明を表わす。中華文明は中国、台湾、朝鮮、シンガポール、ベトナムなどの範囲に当たる（**写真 3-17**）。https://ja.wikipedia.org/wiki/中華文明

3-18.東方正教会文明

東方正教会の影響下における文化や文明を表し、ロシア正教文明、ロシア文明とも言われている。ロシアを中心とした、ビザンティン文明を始まりとする文明で、200 年にわたるモンゴル人の支配の影響を受けた。東方正教会の影響下の地域は、ロシア、ウクライナ、ギリシア、グルジア、セルビア、ブルガリア、ルーマニアなどの範囲である。東方正教会文明または、東方正教会世界とは、サミュエル・P・ハンティントンによる文化圏の分類の一つで、正教会（東方正教会）を主要な宗教としている国を指す。ハンティントンら比較文化論の研究者はロシアを国際社会の主要プレイヤーと位置づけており、ロシア正教会文明、ロシア文明とも呼んでいる。官僚的専制主義を特徴とし、西欧のルッネサンス、宗教改革、啓蒙思想などの影響は限られるため、西欧キリスト教文明とは異なる文明と考えられたため、東欧文明(東方正教会文明=ギリシア正教文明)と言える（**写真 3-18**）。

写真 3-18.東方正教会文明

3-19.仏教文明

期間:紀元前 3000 年～2500 年頃、アジア地域における仏教の影響下にある。仏教はインドの釈尊によって説かれた。仏教とは、仏の説いた教えと仏になる教えである。以前は、インド領のインダス川流域には、インダス文明が栄えていた。インダス文明は、メソポタミア文明・エジプト文明・中国文明等と共に、人類最初の古代文明の一つであり、両都市の遺跡は世界に広く知られている。当時既に文字を使用していたことも、古代文明の特色である。インダス文明の地域は、現在はパキスタン領になっている。**写真 3-19** はクシーナガラ涅槃堂である。https://enjyuji-bo.com/study/仏教文明

写真 3-19.仏教文明

3-20.遼河文明

期間:紀元前 6200 年頃～18 世紀頃。遼河文明とは、満州南部、中国東北部の**遼河流域**で起こった中国の古代文明の一つとして、存在したもの考えられる。モンゴル語は、「紅い山」という意味。市街地の東北部には、紅い花崗岩の岩肌は露出した山の地名である。その県は「赤峰県」と命名されても。「赤峰」とは「ウラーン・ハダ」の漢語訳である。さらに漢人は、地名の由来となった山に対しては「紅山」と名付け、市街地でと山と呼ぶ。スワヒリ文明は、インド洋に行われた交易によって、4世紀頃から発展したアフリカ東部の島々に栄えた文明である。スワヒリ語を使用し、イスラムの教えに則った生活をしていた。スワヒリ文明により発展した都市として、ソマリアのモガディシュ、ケニアのマリンディ、モンサバ、タンザニアのザンジバル、ダルエスサラームなどがある。彼らは「紅山後遺跡」が、新石器時代のものを「赤峰第一文化」、青銅器時代のものを「赤峰第二文化」と名付けた。のちには、「紅山文化」と命名されたのは、「赤峰第一文化」である。彼らは「赤峰第一次文化」の担い手たちは、農耕と牧畜を行なういわゆる「半農半牧」民族であったと理解され、農耕用石器の出土から「穀物の栽培者あった」と指摘しつつも、一方、「牛・馬・羊・豕の骨」のヤジリの出土から牧畜にも従事していたと言われる。さらに、石の鏃の発見から、狩猟民としての性質についても論じられる。https://ja.wikipedia.org/wiki/遼河文明

4.現代の主要文明

写真 4-1.中華文明

4-1.中華文明

期間は、西暦2～5 世紀、前 1400～500 で、中華文明から派生して成立した文明圏である。**紀元前 15 世紀頃**に発生し、儒教に基づいた文明圏であり、儒教文明とも呼ぶ。その中核を中国として、台湾、朝鮮、韓国、ベトナム、シンガポールから成る。経済成長と軍備の拡大、および国外在住の華人社会の影響力を含め、その勢力を拡大し、大きくは黄河文明、長江文明、北方・東北地方の草原文明である遼河文明の三つの文明が融合した(**写真 4-1**)。伝統的な要因は黄河流域で粟を主作物とする農業文明が興り、次第に水稲を主作物とする長江流域へと移行・発展し、長江文明は、黄河流域の農業文明を継承発展した。中華文明が続いている要因は、肥沃な土地でスタートダッシュに成功したからである。

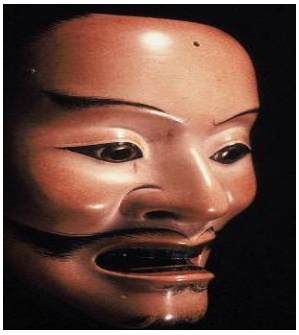


写真 4-2.日本文明

4-2.日本文明

期間は、2～5 世紀において、中華文明から独立して成立した文明圏で、日本一国のみで成立した孤立文明である。仏教も飛鳥時代に伝来して間もなく、日本の伝統的な古来よりある神道と大陸伝来の仏教が接触混淆した結果、調和を目指した神仏習合という離れ業により融合したが、その後に、仏教派と神道派との間に猛烈な宗教戦争が始まるが、我が国では聖徳太子の「和をもって尊しとなす」が実行された。明治維新には、明治元(1868)年に“神仏分離”という「神仏判然令」が下され廃物毀釈の運動が起こり、不幸で野蛮なこともあったが、一民族精神でもある「和」によって治まった(**写真 4-2**)。さらに、遣唐使を中止した平安末期の頃から鎌倉時代にかけては法然、親鸞と日蓮といった天才を輩出し、日本独自の仏教が創始された。また、禅や儒教は中国では、庶民にまでは広がらなかったが、日本では、鎌倉時代に武士道で、さらに深く儒教が

取り入れられ、武士道精神にまで洗練された。これは講談、読本、謡曲、歌舞伎、能といった大衆文芸や芸能を通じ、国民一般に伝わり、国民精神にまでなって行った。

写真 4-3.ヒンドゥ文明

4-3.ヒンドゥ文明

期間は紀元前 2600 年頃～4 世紀頃、インド亜大陸において発生したヒンドゥー教を基盤とする文明圏である。**ヒンドゥ文明は、**インダス文明から発生し、**インド文明**と呼び、主な国は、インドとネパールである。ヒンドゥー文明、ヒンドゥー世界とは、ヒンドゥー教を主要な宗教とした国、地域を指す文化圏(**写真 4-3**)。インド文明と呼ぶ研究者もいる。ヒンドゥー教の成立により徐々に現在の「文明」となり、文化圏としての「文明」の区分は一定でない。

写真 4-4.イスラム文明

4-4.イスラム文明

期間は7世紀頃、アラビア半島に端を発した。イスラム教を基礎とする文明圏で、その戦略的位置や人口増加の傾向、石油資源で影響力を拡大している。イスラム文明の特徴は、融合文明である。イスラム教とアラビア語を基調とし、それにギリシア・イラン・インドなどの先進文明を取り入れ、混ぜ合わせて出来た文明が、イスラム文明である。ペルシアの説話を骨子としてインド・アラビア・ギリシア・エジプトなどの説話を集大成されている(**写真 4-4**)。

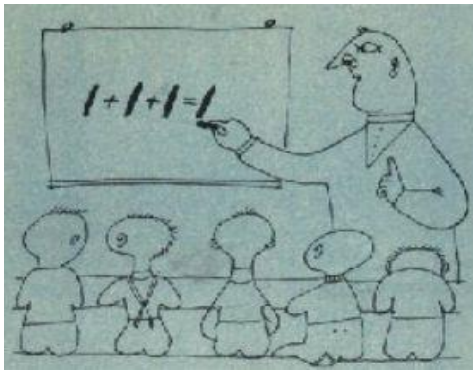


写真 4-5.西欧文明

4-5.西欧文明

期間は、西暦 700～800(8世紀)年に成立。イスラム文明は、イスラムを核とする普遍的文明であり、イスラム世界の各地に伝播し、その地域・民族の特色が加わり、イラン＝イスラム文明・トルコ＝イスラム文明・インド＝イスラム文明など多様な文明が形成された。自然科学が発達したこともイスラム文明の特色である。自然科学は、近現代のヨーロッパ文明で大いに発達し、現代の我々の豊かで便利な生活を実現させた。また、イスラム文化は都市文明で、その主な担い手は商人や手工業者らであり、美術・工芸などの分野も発達した(**写真 4-5**)。すなわち、ヨーロッパ、北アメリカ、ラテンアメリカの三つの主要な構成要素でもある。西欧文明は、西方教会とキリスト教に依拠した文明圏でり、19～20 世紀は、世界の中心だった。西欧文明の三要素とは、(1)ギリシア文化、(2)ユダヤの宗教と倫理、(3)近代科学の所産である工業主義である。プラトン、旧約聖書、ガリレオが三要素を代表している。

ギリシア文化からは、文学と芸術、哲学と純粋数学、社会観の洗練された部分を継承し、**ユダヤ**人からは、狂信者達が仲間同士で〝信仰〟と呼ぶ狂信的な考え方や罪の意識を伴う道徳的熱情、宗教的不寛容、西欧国家主義の一面などを継承した。**科学**は、工業主義に適用された権力、己を神とみなす思い上がった考え、科学的でない種族に対する西洋**文明は、**科学、哲学、理性、知性は脳の論理思考の産物として、カエサルがガリア遠征で、今日のスペイン、フランス、ドイツを属州化した BC27 年に、ローマが帝政化された。

4-6.ロシア正教会文明

写真 4-6.ロシア正教会文明

期間は 16 世紀に、東方正教会文明は、ロシアを中心とし、ビザンティン文明を母体として発生し、源流とする東方正教に立脚した文明圏である。ロシア正教会・ルーマニア正教会・ロシア正教会等を含む正教会について説明は、非カルケドン派とも呼ばれるアルメニア使徒教会、エチオピア正教会、コプト正教会、シリア正教会等については「非カルケドン派正教会」を参照(**写真 4-6**)。

キリスト教>東方教会>正教会。聖アンドレイ・ルブリョフによるイコン『至聖三者』。至聖三者(三位一体の神)そのものは描けないが、至聖三者を象徴する三天使を描いたイコンであるとされる。正教会において、教会は「ハリストス(キリスト)の体」として、また至聖三者の像(イメージ)として、両面から理解される。八端十字架。スラヴ系の正教会でよく使われる十字。この十字のみならず、ギリシャ十字やラテン十字などの他の十字も正教会で使われている。日本語の「正教」は、「正しい讃美」「正しい教え」を意味するギリシャ語に由来する。正教会は、使徒継承を自認し、自身の歴史を1世紀の初代教会にさかのぼるとしている。なお「東方教会」が正教会を指している場合もある。

例外はあるものの、正教会の組織は、国名もしくは地域名を冠した組織を、各地に形成するのが基本である。コンスタンディヌーポリ総主教庁、アレクサンドリア総主教庁、アンティオキア総主教庁、エルサレム総主教庁、ロシア正教会、セルビア正教会、ルーマニア正教会、ブルガリア正教会、グルジア正教会、ギリシャ正教会、日本正教会などは個別の組織名であって、教会全体の名ではない。いずれの地域別の教会組織も、正教として同じ信仰を有している。教会全体の名はあくまで正教会であり、「ロシア正教に改宗」「ルーマニア正教に改宗」といった表現は、誤りである。

4-7.ラテンアメリカ文明

写真 4-7.ラテンアメリカ文明

ラテンアメリカ文明は、ヨーロッパ文明から生まれたにもかかわらず、ヨーロッパや北アメリカの文明とは異なる道をたどって発展した。ラテンアメリカ文明は、西欧文明と土着の文化が融合した文明、主に、カトリックに根ざしている文明圏である。ラテンアメリカは、アングロアメリカに対する概念で、アメリカ大陸の北半球中緯度から南半球にかけて存在する独立国及び非独立地域を指す総称である(**写真 4-7**)。

ここでの「ラテン」とは、「イベリア(系)の」という意味で、この地を支配していた旧宗主国が、ほぼ、スペインとポルトガルであったので、多くの地域がスペイン語、ポルトガル語、フランス語などのラテン系言語を公用語として用いた。社会文化もそれに沿ったものであったことから名付けられ、カトリックと土着文化が融合してできた文明で、協調組合主義的で権威主義的な文化を特徴とする。

4-8.アフリカ文明

期間：古代クシュ王国が**紀元前 6 世紀～紀元後 4 世紀**にエチオピアのアクスム王国に滅ぼされるまで繁栄したアフリカ地域の文化や文明である。かつてアフリカ大陸の四分の一にも及ぶ強大な王国を築いた古代

クシュ王国。その繁栄のあとは現在のスーダン北部に多く残されています。メロウェは、現在のスーダンの首都・ハルツームの北東に繁栄した都市で、鉄鉱石や樹木が豊富で、アフリカ黒人の歴史上最初の鉄器製造の中心地えある。https://ja.wikipedia.org/wiki/%アフリカ文明

5.古代文明の 10 選と古代4大文明

5-1.インカ文明・古代文明 10 選①

写真 5-1.インカ文明・古代文明

期間:1438～1532 **年**で、アンデス文明の中でもインカ帝国で発展した文明をインカ文明と言い。13 世紀ぐらいから 1533 年にスペイン人のパサロに滅ぼされるまで発展していました現在のエクアドルからペルー、チリにおよぶ広い範囲を支配した文明である(**写真 5-1**)。

太陽信仰を中心とした、太陽の神殿を建設。トウモロコシ、ジャガイモを中心とする高度な潅漑農業と牧畜業。石造建築技術、灌漑施設、道路、公共浴場など石造建築技術を駆使した大都市が、アンデス山中に建造、世界遺産マチュピチュがその例である。独特の土器類、綿織物、毛織物の技術とともに金銀、銅、青銅の金属加工技術が高度に発達した。独自のキープ(結縄)による記録方法を持っていたが、文字は用いられなかった。コカ、タバコなどの薬草の利用や脳外科手術など独自の医療技術が存在した。旧大陸との関係は無かった。https://kotobank.jp/word/インカ文明

5-2.アステカ文明・古代文明 10 選②

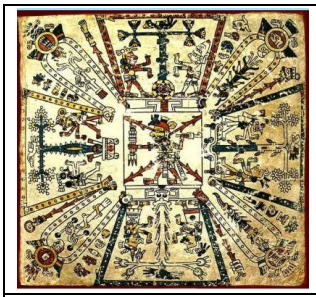


写真 5-2.アステカ文明

期間:1428～1521(95 **年間)頃**にメキシコに栄えたアステカ王国の文明である。メソアメリカ文明のひとつに数えられ、アステカ王国は高度な天文学や、非常に優れた土木の技術力をもち各地へつながる道路網をもっていた。太陽への生贄や雨乞いの儀式などで、人身御供を行った(**写真 5-2**)。https://ja.wikipedia.org/wiki/アステカ文明

5-3.ローマ文明・古代文明 10 選③

写真 5-3.ローマ文明

期間:BC753～476 で、イタリア半島中部に位置した多部族からなる、都市国家から始まり、領土を拡大して地中海世界の全域を支配する世界帝国までになった国家の総称である。当時の正式な国号は、共和制ローマで、主権は元老院ならびにローマ市民であり、共和政成立から使用されて以来滅亡まで体制が変わっても維持された(**写真 5-3**)。伝統的には 476 年のロムルス・アウグストゥルスの退位をもって、古代ローマの終焉とするのが一般的であるが、ユスティニアヌス 1 世によってイタリア本土が再構成される 554 年までを古代ローマに含める場合もある。ローマ市は帝国の滅亡後も一都市として存続し、世界帝国ローマの記憶は、以後の思想や制度に様々な形で残り、今日まで影響を与えている。

5-4.古代ペルシア文明・古代文明 10 選④

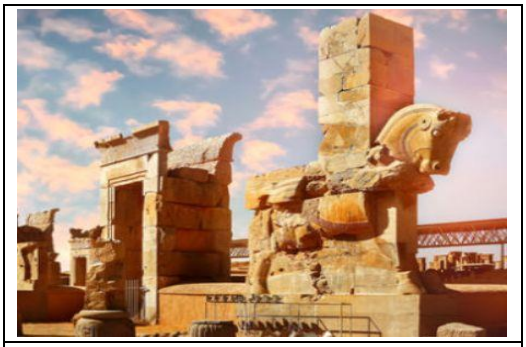


写真 5-4. 古代ペルシア文明

期間:BC550～330 で、古代ペルシア文明は、今ではイランやアフガニスタンがある地域に位置する。人類の文明は、紀元前 1200 年には早くも存在していたことが知られている。最初のペルシャ国は、紀元前 700 年に設立した。この古代の土地は数々の野心的な征服者たちの成功によって広がり、最も重要な王朝は、ギリシア、アラブ、トルコそしてかのモンゴルにまで広がった(**写真 5-4**)。

帝国は、常に軍事的征服を通じて拡大し、ペルシャ人は高度な文明を持っていた。関連項目には、アーリア人とペルシア人、ペルシア語とペルシア文字、ペルシア暦、ペルシア戦争とペルシア立憲革命、ペルシア湾とペルシア高原がある。

www001.upp.so-net.ne.jp/reihuuka/world-persia.htm 古代ペルシア文明

5-5.古代ギリシア文明・古代文明 10 選⑤

写真 5-5.ペトラロナ洞窟

写真 5-6.フランクティ洞窟

写真 5-7.古代ギリシア文明

期間:BC3000～150 年間。エーゲ文明には、ヘラディック文明、キクラデス文明、ミノア文明とミケーネ文明がある。古代ギリシアには、暗黒時代、幾何学文様期、アルカイック期、古典期、ヘレニズム、ローマ帝国支配下のギリシャ、ビザンツ帝国支配下のギリシャとビザンツ帝国がある。洞窟生活が想像できる(**写真 5-5 と写真 5-6 は洞窟、写真 5-7**)。

5-6.中国文明・古代文明 10 選⑥

写真 5-8.中国文明

期間:BC14000～BC500 で、中国文明は、中国大陸における文明・文化などの総称である。中華文明あるいは中華文化とも。世界最古の文明の一つであり、東アジアにおける中心文化でもある。歴史的には同文化圏内で広大な地域や人口を保有し、各地の文化は 4000 年もの発展を経て、「共通性を持ちながらも、鮮明な地方特色を帯びている」という中国独自な特徴をもつ。中国大陸だけでは限らず、台湾・香港・マカオ・シンガポール等の中華圏や、日本・韓国・ベトナム・モンゴル等の漢字文化圏の国々にも、かなり重要な影響を与えている(**写真 5-8**)。

地域・民族として、九龍の壁。中華皇帝の権力を象徴するシンボルである。中国文明は、おおまかにして、次の地域に分けられる。主体民族である漢民族(華夏族)に加えて、チベット民族、モンゴル民族、ウイグル、満州民族、朝鮮民族などがそれぞれの特色を持つ地域文化を作り上げている。言語として、中国の書道。日本の書道に絶大な影響を与えた。漢語には、官話、北方話、東北話、江淮官話、中原官話、西南官話、湘語、呉語、粤語、贛語と客家語等が多くある。

5-7.マヤ文明・古代文明 10 選⑦

期間：元前 2000～AD950 年、メキシコ南東部、ｸﾞｱﾃﾏﾗ、ﾎﾝｼﾞｭﾗｽ、ﾕｶﾀﾝ半島などの地域で繁栄した文明である。多くの都市遺跡や神殿遺跡が残された。メソアメリカ文明のひとつである。マヤ文明は青銅器や鉄器を使用せず、石器が広く使用され牛や馬の輸出用の家畜の飼育を行っていない。農耕は焼き畑農業を行い、トウモロコシなどを作った。また、優れた天体観測により、天文学や数学が発展し、非常に精巧な暦を持っており、文字も、数万種ある象形文字のマヤ文字を使用し。生贄の儀式が盛んに行われた（**写真 5-9**）。 https://ja.wikipedia.org/wiki/マヤ文明

写真 5-9.マヤ文明

5-8.古代エジプト文明・古代文明 10 選⑧と古代 4 大文明

期間：**紀元前 3150～紀元前 30 年頃**、世界四大文明のひとつである。現在のｴｼﾞﾌﾟﾄ付近のナイル川周辺で、エジプト文明は、暦として太陽暦が、文字としてﾋｴﾛｸﾞﾘﾌが用いられ。また、ナイル川の氾濫を予測するため、天文観測、測量、幾何学などが発展した。エジプト文明の遺跡として、ｴｼﾞﾌﾟﾄのピラミッド、ｷﾞｻﾞの大ｽﾌｨﾝｸｽ、ｱﾌﾞｼﾝﾍﾞﾙ大神殿がある（**写真 5-10**）。 https://ja.wikipedia.org/wiki/ピラミッド

写真 5-10.エジプト文明

5-9.インダス文明・古代文明 10 選⑨と古代 4 大文明

写真 5-11.インダス文明

期間：**紀元前 2600～紀元前 1800 年頃**、世界四大文明。インドとパキスタンを流れるインダス川と、ガッガル・ハークラー川周辺で栄えた。インダス文明では青銅器が使用され、建物は、決まった規格のレンガで作られた。インダス文明の都市にはハラッパー、モヘンジョダロなどの都市がある（**写真 5-11**）。インダス文明（インド・パキスタン文明）https://ja.wikipedia.org/wiki/インダス文明

5-10.メソポタミア文明・古代文明 10 選⑩と古代 4 大文明

期間：BC3500～500　メソポタミアは、チグリス川とユーフラテス川の間の沖積平野で栄え、現在のイラクの一部にあたる。古代メソポタミア文明は、メソポタミアに生まれた複数の文明を総称する呼び名で、世界最古の文明であるとされ、文明初期の中心となったのは、民族系統が不明のシュメール人である。 地域的に、北部がアッシリア、南部が

バビロニアで、バビロニアのうち北部バビロニアがアッカド、下流地域の南部バビロニアがシュメールと、さらに分けられている。南部の下流域であるシュメールから、上流の北部に向かって文明が広がっていった。土地が非常に肥沃で、数々の勢力の基盤となったが、森林伐採の過多などで、上流の塩気の強い土が流れてくるようになり、農地として使えない砂漠化が起きた(**写真 5-12**)。

写真 5-12.メソポタミア文明

古代メソポタミアは、多くの民族の興亡の歴史である。例えば、シュメール、バビロニア(首都バビロン)、アッシリア、アッカド(ムロデ王国の四つの都市のひとつ)、ヒッタイト、ミタンニ、エラム、古代ペルシャ人の国々があった。古代メソポタミア文明は、紀元前4世紀、アレクサンドロス3世(大王)の遠征によって、その終息をむかえヘレニズムの世界の一部となる。https://ja.wikipedia.org/wiki/メソポタミア文明

5-11.黄河文明

期間：紀元前 7000 年頃～紀元前 2000 年、世界四大文明のひとつで、中国の黄河中流・下流域で栄えました。黄河文明には、裴李崗文化、老官台文化、北辛文化、磁山文化、仰韶文化、後岡文化、大汶口文化、龍山文化、二里頭文化などの文化が発展した(**写真 5-13**)。

写真 5-13.黄河文明

黄河の氾濫原で農業を開始し、やがて黄河の治水や灌漑を通じて政治権力の強化や都市の発達などを成し遂げた、世界四大文明のひとつである。現在は長江文明や遼河文明などさまざまな文明が中国各地で発見され、四大文明に取り上げる手法はない。新石器時代の仰韶(ヤンシャオ)文化から竜山(ロンシャン)文化を経て、殷・周の青銅器文化に発展していった。甲骨文字。 https://ja.wikipedia.org/wiki/黄河文明

6.日本にも存在した古代文明

6-1.ピラミッド(葦嶽山、黒又山)

日本の「古代文明説」の根拠となるものはいくつかあるが、根強く噂されているのが「ピラミッド」である。といっても、エジプトや、マヤ文明のように石が露出した状態ではなく、自然の山と同化しているために分からない。例えば、広島市庄原市内にある標高 815m の「葦嶽山(あしたけやま)」は、地元では古くから神武天皇の皇陵であると伝えられてきた。

写真 6-1.葦嶽山・黒又山

写真 6-2.黒又山

中腹から山頂にかけて人工的な石積みの跡が見られるほか、山頂付近には何らかの祭祀に用いられたと思しき巨石群もある。また、北側に鎮座する鬼叫山(きぎょうざん)が拝殿山とされ、その山頂にも大きな石を組み合わせた供物台らしきものも確認されている。日本におけるピラミッド研究者のなかには葦嶽山の建造を 23,000 年前と推定し、これこそが世界最古のピラミッドであると主張

するものもいるが、その佇まいを見ると確かに整い過ぎているようにも思える(**写真 6-1 と写真 6-2**)。
https://kusanomido.com/study/fushigi/ancient/24490/葦嶽山・黒又山

写真 6-3.トンカラリン

6-2.トンカラリン

熊本県北部、江田船古墳群のすぐ近くで、ひしゃくのような入り組んだ形で地上を這う謎の隋道トンネルが発見されたのは昭和 49 年のことである。「山の中に奇妙な穴がある」。地域住民のそんな報告から専門家の手が入ったのを皮切りに、今日まで多くの識者が謎の解明に取り組んできた。謎とは、この全長 464.6m にもおよぶ遺構が、誰の手で何を目的に建造されたものなのか、ということだ。

めぼしい記録や伝承もなく、古代人による祭祀施設であるとの説や、用水路や排水路などとして使われたものとする説が登場し、活発な議論が展開された。かの松本清張も調査に訪れ、「卑弥呼の手による鬼道(きどう)である」と自説を語ったのは有名なエピソードである。法に共通点があると指摘しており、一説では、モーゼに連れられてエジプトを脱出したユダヤ人の末裔が建造したともいわれている(**写真 6-3**)。

6-3.与那国海底遺跡

日本最西端の島、与那国島。その南方の海底で、人工物と思われる遺構らしきものが発見されたのは、1986 年の事であった。あるダイバーが、外周数百メートルにも及ぶ巨大な一枚岩を発見したのが切っ掛けで、そこには、人工的に切り出したような痕跡のほか、大きな階段や通路のように見える隙間が確認されたことで、いよいよ古代遺跡ではないかとの説が高まり始めた。東西 250m、南北 150m、さらに高さが 26m というサイズは、高さを除けば古代エジプトのピラミッドに匹敵する。確かに、画像で見る限りは人工物であると考えたほうが自然だが、遺物が出土していないこと、地形の大部分が、自然の形成物として説明できることなどから、今のところは遺跡として認定されていない。ちなみに、この周辺の漁師の間では、古くから海底の不思議な地形に関する伝承があったという。仮に、自然物であったとしても、これほどの地形なら保護する価値はありそうである。(**写真 6-4**)

写真 6-4.与那国海底遺跡

6-4.石造物「酒船石」

この周辺の漁師の間では、古くから海底の不思議な地形に関する伝承があった。竹林の中に鎮座する長さ 5m、高さ 1m ほどの大きな石造物「酒船石」はその代表的な遺跡だ。ミステリアスな溝が特徴で、酒を絞るための道具であったとも、薬を調合するのに使われたともいわれている。また、石船山の頂上付近に設置された「益田岩船(ますだのいわふね)」は、長さ 11m、幅 8m、高さ 4.7m という巨大なもので、さらに上部から大きな溝が2つ設けられている。その工法から7世紀の建造と推察されているが、用途などは不明である。(**写真 6-5**)

写真 6-5.酒船石

7.おわりに

7-1.主たる文明が二カ国以上の国家主体

近代世界以後の日本を除く全ての主要文明が、二カ国以上の国家主体を含んでいる。文明の総数については歴史研究において学説が分裂している。16 個、21 個、8 個、9 個などと文明の数え方には、いくつかの基準がある。ハンティントンの分析は、歴史的には最低限でも 12 個存在し、7 個は現存せず、新たに 2 個または 3 個の文明が加わったと考えれば、現在の主要文明は 7 個または 8 個といえる。

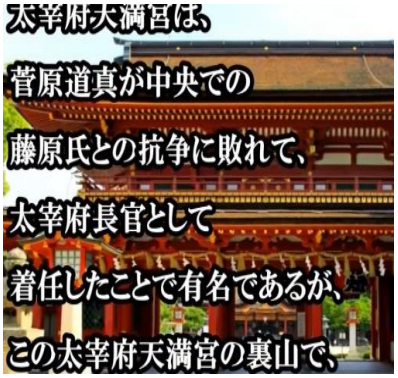
7-2.シュメール文明

写真 7-1.シュメール文明

期間:紀元前 5000 頃～1950 年頃、現在のいらく・クウェートに発展した都市文明である。初期メソポタミア文明に含まれたり、メソポタミア文明の起源とも言われる。シュメールと日本の共通点として、シュメール神話では、「ニビルという星からやってきたアヌンナキという人々が人類をつくり、地球文明を興した」と伝えられる。この説話と同じような話が『記紀』(『古事記』と『日本書紀』)にも登場している。「天孫降臨」伝説とよばれる、「天から来た神々が日本列島をつくり、そこに降り立って日本を建国した」というものである。古史古伝『竹内文書』にも、神話とそっくりな説話である(**写真 7-1**)。https://minnkane.com/news/6591 シュメール文明

7-3 シュメール人日本人起源説

シュメール文化は、5000年前に栄えた最古の文明とされている。楔形文字はほとんど解読されていない。彼らも突然消えたマヤやアステカ族同様、実に、高度な文明を築きながら消えた。シュメール文化は、ユダヤ人が祖先という説があり、日本各地にユダヤ族と共通の文化・風習や地名が残っている。それが、ユダヤ族より 1000 年も前のシュメール人まで遡る。「古代の日本列島にはさまざまな民族が渡ってきたが、建国の大業を経営統一した中心人種は、世界の諸文明の祖であるシュメール系民族だった。彼らは今から数千年前その大宗家たる皇室を奉戴して、人類文明の揺りかごである「西の豊葦原の瑞穂の国」から、「日出ずる豊葦原の瑞穂の国」に移住し、シュメール人本来の大理想を表現するために、この日本を築いたという。



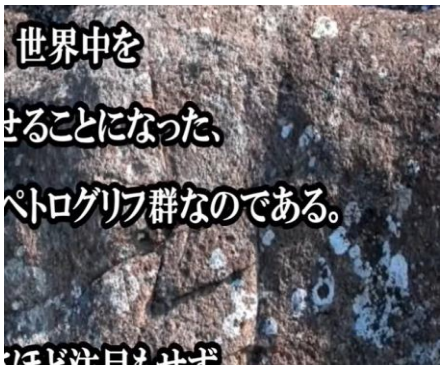


写真 7-1. 901 年、菅原道真は“昌泰の変“藤原に敗れて員外師にて左遷

写真 7-2.世界のﾍﾟﾄﾛｸﾞﾘﾌ群が多い

写真 7-1 は、昌泰 4(901)年菅原道真は“昌泰の変“藤原に敗れて員外師として左遷された。**写真 7-2** は世界中のﾍﾟﾄﾛｸﾞﾘﾌ群が多い。日本列島で衝撃的な発見が相次いでいる。最初に山口県下関市の西端、関門海峡を目の前にする彦島から、奇妙な模様＝「ペトログラフ」を刻んだ石が次々に発見され、解読を進めるにつれ、驚愕の事実が

わかってきた。それは、シュメールの古代文字だった。後に、ペトログラフは、九州北部と山口県西部の各地で相次いで発見され、。このペトログラフの発見のニュースは、日本国内よりも海外でより注目され、高く評価されている。

シュメール語を刻んだ石が発見され、まてよ、我々が何度も登った位山にあった石にもペトログラフが刻まれていた。シュメール人が理想郷を築くためにこの国にやってきたとしたら、もっと各地にその要件を満たす物や痕跡がある氣がする。その一部の写真をお知らせする。

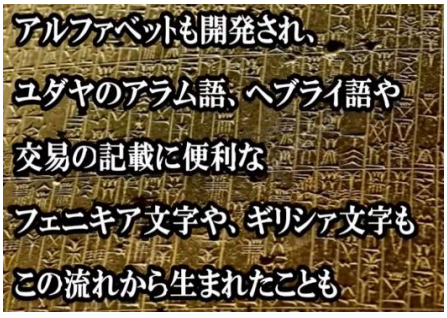


写真 7-3.ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ開発、ｷﾞﾘｼﾔ文字

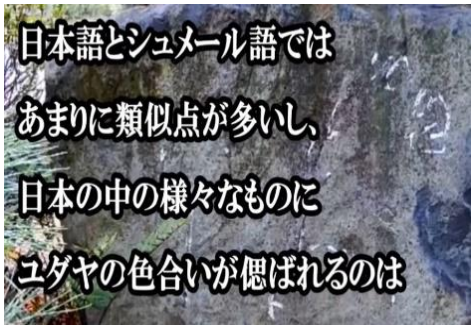


写真 7-4.日本で発見，シュメール文字解読、日本とシュメールの類似文字が多い

写真 7-3は.ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ開発、ｷﾞﾘｼﾔ文字である。**写真 7-4** は日本で発見，シュメール文字解読、日本とシュメールの類似文字が多い。**写真 7-5** は.BC2000 年、十六八重表菊、亡国に瀬したﾕﾀﾞﾔ国。**写真 7-6** は岩に刻んだ文字。**写真 7-7** は発展.神武天皇船出の磐である。

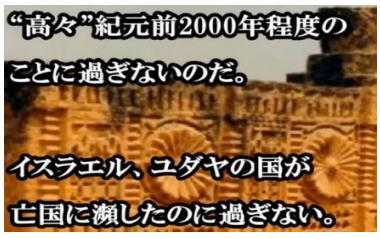


写真 7-5.BC2000 年、十六八重表菊、亡国に瀬したﾕﾀﾞﾔ国

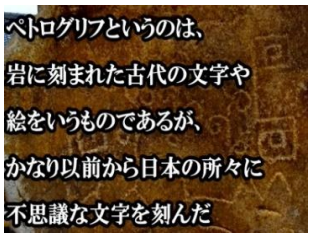


写真 7-6.岩に刻んだ文字

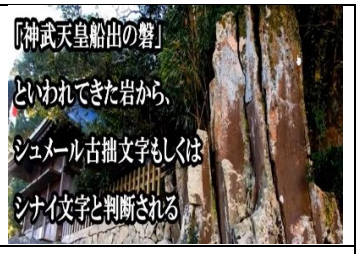


写真 7-7.神武天皇船出の磐

7-4.世界古代文明表図

紀元前の文明期間

	文明名称	期間前(年)	期間後(年)
1	古代ﾍﾟﾙｼｱ文明	550	330
2	ｱﾌﾘｶ文明	600	400
3	ﾏﾔ文明	2000	950
4	四川文明	2000	600
5	ｲﾝﾄﾞ文明	2300	1700
6	ｲﾝﾀﾞｽ文明	2600	1800
7	古代ｷﾞﾘｼｱ文明	3000	150
8	ｷｸﾗﾃﾞｽ文明	3000	2000
9	仏教文明	3000	2500
10	ｴｼﾞﾌﾟﾄ文明	3150	30
11	ﾒｿﾎﾟﾀﾐﾔ文明	3500	500
12	ﾐﾉｱ文明	3600	1100
13	黄河文明	7000	2000
14	中国文明	14000	500
15	長江文明	14000	1000

表 7-1.紀元前の世界の文明期間

紀元後の文明期間

	文明名称	期間前(年)	期間後(年)
1	日本文明	100	400
2	西欧文明	700	800
3	ﾐｼｼｯﾋﾟ文明	800	1500
4	中華文明	1500	

表 7-2.紀元後の世界の文明期間

世界古代文明まとめ10選		
	文明名称	期　間
1	インカ文明	西暦1438- AD1532
2	アステカ文明	西暦1428-AD1521
3	ローマ文明	西暦753- AD476
4	古代ペルシア文明	紀元前550- BC330
5	古代ギリシア文明	紀元前3000- BC150
6	中国文明	紀元前14000- BC500
7	マヤ文明	紀元前2000-AD950
8	エジプト文明	紀元前3150- BC30
9	インダス文明	紀元前2600- BC1800
10	メソポタミヤ文明	紀元前3500- BC500
https://world note.com/ancient civilizations list		

表 7-3.世界古代文明まとめ 10 選

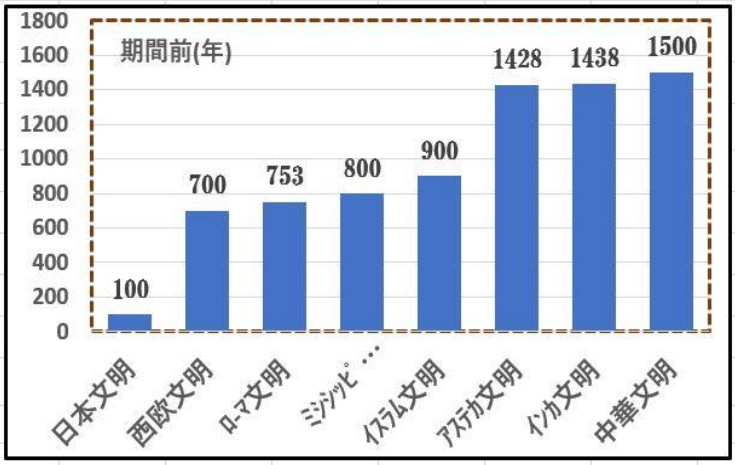


図 7-1.世界古代文明の期間の初期

表 7-3 は世界古代文明まとめ 10 選である。図 7-1 は世界古代文明の期間の初期である。

表 7-4.世界古代文明の年代とその内容

	文　明	紀元前	内　容
1	エジプト文明	9,000	(ナブタ・プラヤ遺跡)　大規模祭祀施設（ゴベクリ・テペ）　(トルコ)
2		8,800	牛が家畜化される
3		8,500	小麦・エンドウなどの栽培
4		8,000	羊・山羊・豚が家畜化される
5	長江文明	7,500	米・アワ・コーリャンの栽培開始、　豚が家畜化
6	黄河文明	7,200	ソルガム・ミレットの栽培　ゴマ・ナスの栽培開始
7		6,000	牛が家畜化、牛が家畜化
8		6,000	ケシ・エンバク（西ヨーロッパ）
9	メソポタミア文明	5,300	ウバイド期
10		4,000	馬が家畜化される(ウクライナ)、ロバが家畜化、水牛が家畜化。
11		3,600	北米先住民（ワトソン・ブレイク）、ヒエログリフの前身
12	巨石文化	3,500	トウモロコシ・インゲンマメ・カボチャ(中央アメリカ)、ジャガイモ・キャッサバ（アンデス・アマゾン川流域）、ラマ・アルパカの家畜化（アンデス）
13	エーゲ文明	3,000	クレタ・ミケーネ
14	アンデス文明	2,600	（南米）　最初のピラミッド(ジェセル王)　インダス文明
15		2,500	フタコブラクダ家畜化(中央アジア)、ヒマワリ・アカザ(北米東部)、ヒトコブラクダの家畜化(アラビア)
16	ヒンドゥー文明	2,000	インド亜大陸に現れた文明でヒンドゥー教が文化の基盤
17	オルメカ文明	1,200	中央アメリカ
18		900	弥生時代開始（始期の解説）、水田稲作の開始
19	アナサジ文化	750	北米

謝 辞

論文作成時に、査読には、本会の副会長である古谷昭雄博士と大阪大学元講師の久森洋昭先生及び大阪経済法科大学客員教授の中良紀先生と歴史研究家の藤田康雄先生に感謝申し上げます。

(2019 年 12 月 20 日受稿、2020 年 1 月 25 日掲載決定)

参考文献

1)石田英一郎;『マヤ文明 世界史に残る謎』、中央公論社、1966 年。
2)八杉佳穂;『マヤ文字を解く』、中央公論社、1982 年。
3)青木晴夫;『マヤ文明の謎』、講談社〈講談社現代新書 757〉、1984 年。
4)ピエール・レベック著 青柳正規監修;『ギリシア文明神話から都市国家へ』、創元社、1993 年。
5)小池佑二;「マヤの暦について」、東海大学文明研究所紀要 16 号、東海大学、1996 年
6)周藤芳幸;『世界の考古学 3 ギリシアの考古学』、同成社、1997 年。
7)周藤芳幸著;『図説 ギリシアエーゲ海文明の歴史を訪ねて』、河出書房新社、1997 年。
8)増田義郎・山田睦男編;」『ラテン・アメリカ史 1』、山川出版社、1999 年。
9)近藤英夫編著;『NHK スペシャル四大文明・インダス』 、日本放送出版協会、2000 年。
10)周藤芳幸、村田奈々子;『ギリシアを知る事典』、東京堂出版、2000 年。
11)A・レシーノス原訳 / 林屋永吉訳;『マヤ神話 ポポル・ヴフ』、中央公論新社、2001 年。
12)山瀬暢士; 『マヤ文明 マヤ人たちの残した歴史』、太陽書房、2002 年。
13)P・ブラウン、宮島訳;『古代末期の世界―ローマ帝国はなぜキリスト教化したか?―』、刀水書房、2002 年。
14)コウ, マイケル・D、増田義郎監修、武井摩利・徳江佐和子訳;『マヤ文字解読』、、創元社、2003 年。
15)小林登志子;『シュメル 人類最古の文明』、中央公論新社〈中公新書〉、2005 年。
16)桜井万里子;『ギリシア史』、山川出版社、2005 年。
17)周藤芳幸;『古代ギリシア 地中海世界への展開』、京都大学学術出版会、2006 年。
18)トンプソン, J. エリック・S. 青山和夫訳;『マヤ文明の興亡』、新評論、2008 年。
19)宇野隆夫;「インダス文明の都市と王権」、国際日本文化研究センター、2008 年。
20)近藤英夫; 『インダスの考古学』、同成社、2011 年。
21)長田俊樹;『インダス文明の謎 古代文明神話を見直す』、京都大学学術出版会、2013 年。
22)長田俊樹編;『インダス 南アジア基層世界を探る』、京都大学学術出版会、2013 年。